

## 幼稚園における高校生による職場体験実習についてⅡ

－ 保育者の意識調査の結果および子どもの反応 －

○山本 哲也 水野 智美 高見 令英 桐原 宏行 望月 珠美 横山 範子 徳田 克己  
(つくば国際大学) (筑波大学) (国際武道大学) (つくば国際大学) (筑波大学) (桐花教育研究所) (筑波大学)

### 3. 結果および考察

体験実習の際に高校生が参加した活動は、どのクラスも紙しばいを読む、掃除を手伝う、自由遊びのときに子どもと一緒に遊ぶという内容であった。この体験実習は、子どもと一緒に遊ぶ活動が中心であったため、活動をする際に伝えたことは「子どもと一緒に楽しく過ごしてもらえばそれで十分です」というものであった。「保育者」となって子どもを援助したり、働きかけをしてほしいといった指示は出さなかったということであった。

印象に残っていることは、「水遊びの際に全身がびしょぬれになって子どもと遊んでくれた(保育者養成校の学生でも、なかなかそこまでではない)」、「考えていた以上に積極的に活動等に参加してくれた」などの好意的なものもみられた。一方「子どもたちとの関わりにとまどって、笑ってごまかしていた」、「紙しばいを読んでもらうようお願いしたら、人前で読むのが恥ずかしかったようで断られた」、「こちらの質問に対して答えが単語で返ってきたり、“えーちょっとやばあーい”といった言葉を私たちに使うことがあった」、「タイトスカートにヒールの高いサンダルで実習に来ている高校生がおり、園庭で子どもと遊んでいる姿をあまり感じよく思わなかった」といった、あまりよい印象ではないとする記述もみられた。

高校生や学校に対して、実習に来る前に準備しておいてほしかったと思う点を尋ねた項目では、「場に合った服装などの注意を学校であるとよかった」、「言葉遣いに気をつけてほしかった」などがあつた。短大生の教育実習に関する調査(内田,1998)においても、「服装や言葉づかいなどが実習生としてふさわしい」と思うと回答した教師は全体の60%しかおらず、高校生に限らず、服装や言葉づかいに関しては、学校側でも事前に指導が必要であることが示されている。

保育者養成校の教育実習に来る学生と体験実習の高校生との違いは「(高校生は)伸び伸び活動していた」という好意的な記述が1例あつたが、「保育者養成校の学生は、保育者の活動や援助を観察していくが、高校生は子ども、特に自分に接してくれる目の前にいる子どものみを見ていた」、「実習に対する心構えが違う」などの記述があつた。

保育者からみて体験実習を行ってよかったと思う点として、「とても楽しく過ごし、進路を決める参考になった様子であつたので、よかったと思う」などの高校生の進路決定に役立つことへの記述はあつたが、自分や幼稚園にとってのメリットに関して記述している人はいなかった。

今後、またこのような体験実習があれば、引き受け

たいと思うかという質問に対して、今回実習生の担当を引き受けた4名の先生のうち3名が「わからない」と答えており、残り1人が「引き受ける」としながらも、「ただし、積極的に引き受けたいわけではない」と補足していた。今回、実習生の担当にならなかった先生は全員が「引き受ける」を選択していた。

### V 研究3: 幼児の意識

#### 1. 目的

体験実習の高校生が来たクラスの子どものは、その高校生についてどのように感じていたのかについて明らかにする。

#### 2. 方法

##### (1) 調査対象者

名古屋市にあるK幼稚園に通う年長児62名、年中児54名を対象とした。調査回収数は年長児32名(51.6%)、年中児25名(46.3%)、無回答2名であった。体験実習は夏期保育中に行われたため、欠席者が多く、また調査用紙を2学期に入ってから回収したため、回収数が少なかった。

##### (2) 調査方法

質問紙を封筒に入れ、お便り帳にはさんで保護者に配布した。回答した質問紙は保護者が封筒に入れ、封をして子どもに渡し、担任教師に手渡させた。

##### (3) 調査項目

- ・体験実習の高校生について自分から何か話題にしたかどうか(項目選択)
- ・話題にしたとすれば、いつ、誰に、どのような内容を話したか(自由記述)
- ・話題にしなかったら「今週末来た高校生のお姉さんと一緒に何をしたか」を子どもに尋ねてみて、子どもがどう話したか(自由記述)

### 3. 結果及び考察

体験実習に来た高校生について自分から話題にした子どもは、年長児16名(50%)、年中児14名(56%)、話題にしなかった子どもは、年長児16名(50%)、年中児11名(44%)であった。

話題にした内容を、①一緒に遊んだ遊び・活動の内容、②高校生のこと、③覚えていない、④その他、に分類し、計数した。一人の子どもの中で複数の内容を発言した場合、それぞれを数に入れた。また、自分から話題にした年長児を自発年長群(16名)、年中児を自発年中群(14名)、自分から話題にしなかった年長児を誘発年長群(16名)、年中児を誘発年中群(11名)とした。表1にそれぞれの内容を話した子どもの人数と割合を示した。

表1 内容を話した子どもの数(名)

	自発年長	誘発年長	自発年中	誘発年中	計
①	11	8	11	5	35
②	6	4	2	0	12
③	1	2	2	2	7
④	1	2	2	4	9
計	19	16	17	11	63

以下に①と②の記述例を示す。

#### ①一緒に遊んだ遊び・活動の内容

「ポケモンごっこをしたり、おままごとをした」  
「今日、新しい先生がアンパンマンの紙しばいを読んでくれた。最初、アンパンマンのことをアンパンって言ってたよ」

「水遊びで水をかけたら“やめて”って言ってた」

「質問コーナーをした」

「ブロックをして、車を作った」など

#### ②高校生のこと

「昨日から新しい先生がクラスにきてる。〇〇先生って名前で、髪が短いけど女の先生だよ」

「遊んでくれるし、優しくかったよ」

「〇〇先生ね、いちぢくが嫌いなんだって。いちぢくって何？」

「ほっぺがプリプリでおっこちそうな先生なんだよ」

「私が元気がないときに“どうしたの”“何して遊ぼうか？”って話しかけてきてくれた。うれしかったし、とっても楽しかった。〇〇先生大好き。」など  
年中児と比べると、年長児の方が高校生のことについて話題にすることが多かった。また、自分から高校生について話題にした子どもの方が遊びの内容・活動の内容について話すことが多いという特徴もあった。

逆に親から聞かれて話題にした子どもは、覚えていなかったり、自分とは遊んでいないと感じていた傾向にあったと言える。

自分から率先して話題に出した子どもは、体験実習の高校生について親に話したくなるほどの楽しい印象を受けていたのであろう。また、回答の中に「〇〇先生、今日もいたからよかった。もしいかなかったら寂しいな。明日もいるかな。」「今日でさよならだ。寂しかった。」という記述もみられた。

幼児にとって、高校生は多くの子どもに慕われていたことがわかるが、保育者も指摘しているように、全体の子どもと遊んでいるのではなく、目の前にいる子どもとの関わりに終始していたため、「自分と遊んでない」という記述もみられる結果になったと思われる。

## VI まとめ

(1) 高校生にとって、体験実習のもたらした意味を以下に記す。

- ・体験実習によって、高校生が保育者になりたいという希望を強く持つようになった。

- ・保育の仕事のよい面だけではなく、困難な面を知ることができた。

- ・子どもと直接接することによって、今まで漠然としていた子ども像がはっきりしてきた。

(2) 体験実習に参加するにあたって、高校生が気をつけるべきこと及び準備しておくことを以下に示す。

- ・実習にふさわしい服装や言葉づかいをする。

- ・子どもの興味・関心を調べておいたり、子どもについての知識を多少とも持つておく。

- ・目の前の子どもにだけ接するのではなく、幅広く子どもに接するように気をつける。

一例ではあるが、幼稚園の事前指導で服装に関して注意された高校生はその注意を守れなかった。その結果、保育者により印象を与えず、保育者のみが一方的に不満を抱くことになったと思われる。今回は幼稚園における事後指導が実施されなかったが、今後は事後指導などで、反省点を高校生に伝えたり、高校側にその高校生の反省点を伝えることによって、次年度以降の参考にしたい。

また、高校生の反省点に子どもの接し方についての記述が多く見られたのは、事前指導の際に「子どもを平等に扱うこと」という注意があったため、その点について気をつけて接しようとしたからであると考えられる。この「すべての子どもに平等に接する」ことは大切なことであるが、幼児と接した経験のほとんどない高校生には非常に難しいことであろう。高校生にその点を求めるならば、事前指導の際に具体的な場面をあげて保育者の対応の仕方を例示するなど、具体的な指導が必要になるとと思われる。

#### <参考文献>

伊藤安浩(1998) 教育実習に関する調査研究(その2) -「職業志向」「授業観」「子ども・生徒観」の変化に注目して-、大分大学教育学部研究紀要, 20(1)129-142.

亀谷純雄・栗原康子・福島洋子・三森桂子・野尻裕子(1997) 幼稚園教育実習・保育実習マニュアル, 文化書房博文社

松井 仁(1998) 教育実習生に対する児童認知調査の実施, 新潟大学教育学部紀要, 39(2)442-452.

松本峰雄編著 改訂 教育・保育・施設実習の手引き 建帛社

内田雅人(1998) 和洋女子大学・和洋女子短期大学教職課程履修学生に対する教育実習生受け入れ校の態度に関する調査結果, 和洋女子大学大学紀要(文系編), 38(1)45-61.